

知的障害者福祉政策史の方法論

—施設史・社会問題の歴史・精神医学史の知見をもとにして—

○ 高崎経済大学 原田玄機 (009041)

キーワード：知的障害、歴史、政策

1. 研究目的

本研究の目的は、計量的な入退所の構造の分析によって福祉供給の水準を分析することが、知的障害者福祉政策史研究の方法論にとって有意義であることを示すことである。

知的障害者福祉政策史研究は、政策への批判的な問題意識から、従来の政策がなぜ形成されてきたのかを解き明かそうとする。角田（2014）は日本でグループホームが不十分なかたちでしか形成されなかったと把握し、政策の構想を分析する。井原（2015）は社会運動が主張する知的障害児の範囲に比して、福祉政策はより狭い範囲しか対象としてこなかったと指摘し、両者の対象のずれを論じる。

しかしかには政策が形成されたとしても、政策がもたらす帰結は、サービス実施などの福祉供給の水準で変化をこうむる。だとするならば、福祉供給の水準を分析することは、政策史に貢献すると考えられる。しかし先行研究では、福祉政策が知的障害者に対して与えてきた影響・帰結に問題意識を持つが、このような供給の水準は必ずしも明らかではない。そこで本研究では、どのような観点から福祉供給を分析すれば、政策史に資する研究が可能かを探究することを目的とする。

この方針を取ることは、2つの利点がある。第1に、分析対象となる資料が拡大することである。知的障害者福祉政策は資料が残されていないことも多く、資料の範囲を拡大させることは、研究分野の発展に重要である。第2に、知的障害者福祉の分野では、施設史の蓄積があり、この研究群に接続することで豊かな知見を援用することが可能となる。

2. 研究の視点および方法

知的障害者福祉政策史の方法論を探究するにあたり、3つの研究群を検討する。第1に、知的障害者施設史である（滝乃川学園・津曲裕次監修・編集 2011 など）。日本において分厚い蓄積があり、この分野の研究が、政策史にとってどのような意義があるかを検討する。

第2に、社会問題化の過程を扱う、英語圏の構築主義的な歴史研究である（Trent 1995 など）。これまで日本にも紹介されてきたもので、この研究群の意義と課題を検討する。

第3に、精神医学史である。英語圏の精神医学史では、「精神障害を持った子供の問題」も扱われている（鈴木・北中 2016: 11）。そうした研究は、精神医学史研究のなかでも計量的な手法を応用した研究群（Melling & Forsythe 2006 など）との関係がある。そこで、

これらの研究が知的障害者の研究にどのような意義をもちうるかを検討する。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規程および研究倫理規程にもとづく研究ガイドラインを確認したうえで、内容に留意してなされたものである。

4. 研究結果

施設史研究は、施設内部の実態に関心を持ち、資料論を展開してきた。地域・社会を分析対象とする場合も、施設と外部との関係を知りたいという関心に基づく。そのため、社会のなかで施設が果たした役割を明らかにする問題設定とはなっていない。

構築主義に影響を受けた研究群は、19世紀から20世紀にかけて、専門家などによって、いかにして知的障害に連なるカテゴリーが形成されたかを明らかにする。しかし、そのようなカテゴリーの形成が、いかに知的障害者の処遇に帰結したのかの検討は不十分である。

これらに対して、計量的手法を応用した精神医学史では、入退所記録を利用することで、ジェンダーや階級などによって、在院期間などが異なることを明らかにする。さらに、家族がいかなる場面で施設を利用するのか、行政や裁判所などがどのような場面で施設入所を決定するのかといった分析を可能としている。

5. 考察

入退所記録を利用することで、どのようなタイプの在所者がいるのか、それがいかにして行政によって決定されるのか、家族がどのような役割を果たすのかといった論点を分析するという視点が得られた。このような分析は、部分的には施設史でも試みられており、日本の知的障害者福祉政策史でも可能であると思われる。

今後は、実際のデータを基にして、研究が可能であることを示す必要がある。

参考文献

井原哲人 (2015) 『「精神薄弱」乳幼児福祉政策の戦後史：権利保障体系の展開と変質』高菅出版/Melling, Joseph & Bill Forsythe (2006) *The Politics of Madness: The state, insanity and society in England, 1845-1914*, Routledge/鈴木晃仁・北中淳子 (2016) 「総論：精神医学の歴史と人類学」鈴木晃仁・北中淳子編『シリーズ精神医学の哲学 2：精神医学の歴史と人類学』東京大学出版会：5-27/滝乃川学園・津曲裕次監修・編集 (2011) 『知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史 下』大空社/Trent, James W. (1995) *Inventing the feeble mind: a history of mental retardation in the United States*, University of California Press/角田慰子 (2014) 『知的障害者福祉政策にみる矛盾：「日本型グループホーム」構想の成立過程と脱施設化』ぷねうま舎